

あのとときの常呂・写真館

VOL 161

(1993年)

平成5年10月

小高神社のご神体返還・木柱設置

▶現在の中央児童公園には、戦没者を祀る忠魂碑だけしかありませんが、かつては、通称「小高神社」と呼ばれた相馬妙見小高神社や野外ステージ、相撲の土俵があり、戦没者慰霊祭の式典と余興をはじめ、さまざまな催しが行われ、子どもたちの遊びの場、地域の人びとの催しと憩いの場でした。●『常呂町史』の相馬妙見小高神社の沿革には、明治41年に渡辺留八が福島県相馬郡小高町小高神社から天之御中主大神を受け、大正5年に現在の忠魂碑の前に御堂を建立。大正12年8月、常呂川堤防の完成を記念し、当時の荷馬車業者と築堤工事に従事した人たちによって馬の神として現在地に移社し、拝殿を造営、相馬妙見小高神社と称号したと記しています。●平成5年10月、この相馬妙見小高神社の御神体は小高神社に返還、拝殿が取り壊され、「相馬妙見小高神社跡」の木柱が建立されましたが、現在はその木柱もありません。(木柱の写真もありません)●見慣れていたはずの小高神社ですが、ご神体や氏子、祭りの実際など案外分かっていません。それでもかつての小高神社を記憶に残すために、写真を中心に振り返ってみます。





*上・前ページ：昭和50年の小高神社拝殿と神社祭りののぼり

●この2枚の写真は、昭和50年の「広報ところ」8月号に掲載された「郷土の祭り 相馬神社祭」の記事を書くために広報係が撮ったもので、記事には、「毎年7月に例祭、近く拝殿を改修する予定」の記述があります。



*上：昭和30年7月7日 小高神社での東京大相撲の興行



*昭和35年の小高神社と敷地内を抜ける道路



*上：昭和30年3月
小高神社の土俵



*上：昭和39年7月20日の戦没者慰霊祭（小高神社の扉が開いています）

●このときの「広報ところ」には、慰霊祭の後に行われた招魂祭で、自衛隊音楽隊の吹奏楽演奏や子ども相撲、武道大会、富士月の栄の演芸会などでにぎわったことを伝えています。

●地域の人にとって、小高神社は拝殿だけを指すものではなく、この公園・広場全体を表す言葉であり、「相馬妙見小高神社」という正式の名称で呼ぶことはほとんどなかったと思われます。



*この3枚は、昭和41年7月20日の招魂祭での子ども相撲、武道大会（銃剣道・剣道）

*銃剣道の写真には、中央奥に小高神社が写り込んでいます



*上：昭和40年秋、小高神社で行われた消防演習



*上：昭和44年5月3日の第1回子ども野外写生会
（中央に小さく二宮尊徳像が見えます）

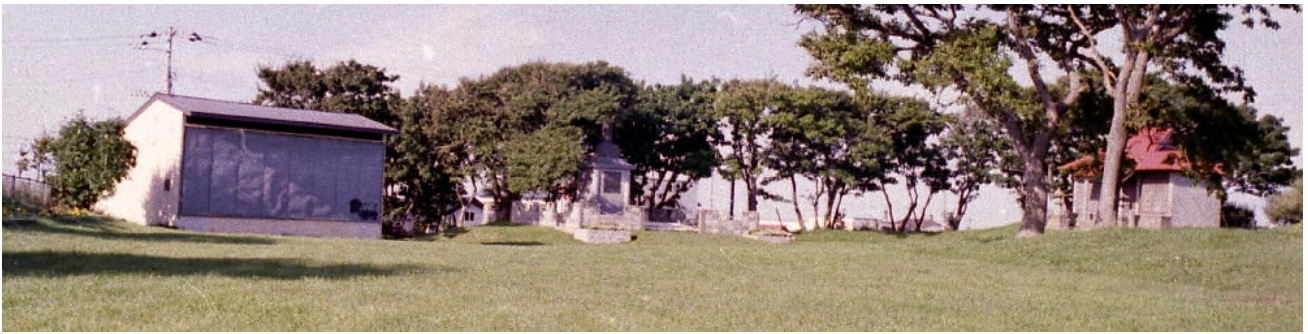
*下：昭和49年5月の天理教婦人部による小高神社の清掃作業





*上：昭和54年9月12日のふるさと祭り（左手に野外ステージが見えます）
*下：平成4年8月の小高神社





*平成4年8月の小高神社
左から野外ステージ、中央に忠魂碑、右に小高神社、その手前の
小高いところが土俵跡

■ 2つの〈馬を祀る〉小高神社と相馬神社

●あまり知られていませんが、農協牧場には「相馬神社」と「獣魂碑」があります。この相馬神社は元々富丘にあったとされ、昭和55年6月25日に種馬所に新たに建立・落成（常呂町酪農振興会30年記念史）し、その後農協牧場に移設したものです。●『富丘百年史』所収の古老座談会の中に、「富丘に住んでいてお祭りみたいなことはあるのか？という問いかけに、昔〈妙見〉さんがあって、常呂町の家畜を飼っていた人たちがお参りに来ていた。現在は土佐にもっていっている」と答えていうくだりがあります。●小高神社は、最初から現在地とほぼ変わっていないので、ここでいう〈妙見さん〉は相馬神社を指します。●また、相馬神社と獣魂碑のことを断片的に知る人からも、相馬神社は元々富丘にあり、獣魂碑と一緒に種馬所にあり、農協牧場に移ったのは4回目と聞きました。●このことは、下の年表からも、〈富丘→種馬所→種馬所の移転→種馬所の廃止・農協牧場への移転〉と一致します。●今となっては、相馬神社の詳しい成り立ちや場所の変遷などの詳細は不明ですが、相馬妙見小高神社とともに、常呂図書館所蔵の資料から分かることを年表にまとめました。

年 月 日	内 容（ 出 典 ）
明治41年	渡辺留八が福島県相馬郡小高町小高神社から天之御中主大神を受ける（常呂町史）
大正5年	現在の忠魂碑の前に小高神社の御堂を建立（常呂町史）
大正12年8月	常呂川堤防の完成を記念し、馬の神として現在地に移社し、拝殿を造営、相馬妙見小高神社と称号
昭和18年7月16日	相馬神社祭典：共同牧場（当直日誌）
昭和21年11月3日	常呂町畜産振興会により種馬所に「獣魂碑」建立

	(土佐基線2号、旧土佐公営住宅跡) (常呂文庫 10「常呂町歴史散歩」)
昭和22年7月11日	相馬妙見神社遷座祭執行：午後8時(当直日誌) *注：このときに富丘から種馬所に相馬神社が 移ってきたのかもしれない
昭和22年7月15日	小高神社例祭：子ども角力 相馬妙見神社例祭：種馬所：青年角力(当直日誌) *2つの神社が同一日に2ヶ所で祭りをしています
昭和23年7月14-15日	小高神社例大祭(当直日誌)
昭和23年11月6日	獣魂祭(当直日誌)
昭和24年7月31日	全道青年角力大会北見地区予選：小高神社境内
昭和26年7月16日	相馬神社祭典余興：種馬所(当直日誌)
昭和30年7月7日	東京大相撲鏡里、大内山一行、小高神社境内で興業 (当直日誌) 勸進元：黒川武・山田憲一(当日番付表)
昭和30年12月8日	常呂町酪農振興会が獣魂祭挙行 (常呂町酪農振興会創立30年記念史)
昭和35年10月21日	種馬所・管理人住宅移転完了(農協50年史) 土佐9番地に移転(常呂町農協創立20年記念史) 獣魂碑も種馬所とともに移転 (常呂文庫 10「常呂町歴史散歩」)
昭和37年8月10日	〈愛の鐘〉山田甚太・ハル夫妻の寄贈により小高神社 境内に設置・始鐘式開催(広報ところ)
昭和46年8月	種牡馬管理者の米山勝利死亡のため種馬を返還 種馬所閉鎖(農協50年史)
平成5年10月	相馬妙見小高神社の御神体は小高神社に返還